

液体研磨剤 ステンレス用・成分表、安全シート

柳 瀬 株 式 会 社
兵庫県丹波市山南町谷川 1385
TEL：0795-77-2151
作成日：2007 年 2 月 16 日
変更日：2025 年 4 月 30 日
整理番号：MSDS-X010

液体研磨剤 ステンレス用 (YHK-52)

危険有害性の要約

GHS 分類結果

物理化学的危険性

可燃性固体 分類できない

健康に対する有害性

- ・呼吸器感作性 区分 1
- ・皮膚感作性 区分 1
- ・特定標的臓器毒性（反復暴露） 区分 1（肺）

環境に対する有害性

- ・水生環境急性有害性 区分 1
- ・水生環境慢性有害性 区分 1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

- ・アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- ・吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ
- ・長期又は反復暴露による肺の障害
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[応急措置]：

気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

[廃棄]：

内容物/容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

重要危険有害性

長期にわたる、または反復暴露により臓器の障害

取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

「暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

本品自身は自然発火性を有しないが、マグネシウムやアルミニ

- 局所排気・全体換気： ウムを研磨した場合の研磨屑（バフ滓）は水と反応して水素を発生し、空気と混合して発火することがある。
 研磨作業で生じる粉塵を吸入または目に入れたりしないため、研磨作業場は排気装置を設け、防塵マスクや保護眼鏡を着用して研磨を行う。作業後はうがい、手洗いなどを行う。
- 安全取扱い注意事項： 取扱い後はよく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 強酸性物質、強アルカリ性物質との接触や混合は避ける。

保管

- 技術的対策： 保管場所には危険有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。
- 保管条件： 直射日光の当たらない、水のかからない冷暗所に保管する。
 強酸性物質、強アルカリ性物質等から離して保管する。
- 容器包装材料： 弊社より供給した容器を使用。

応急措置

暴露経路による応急措置

- 吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 吐き気、頭痛などの症状が続く場合には、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合： 皮膚への刺激や不快感が生じた場合、製品の使用を止めること。粉末が付着したときは、大量の水で洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
- 眼に入った場合： 水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合： 水で口の中をよくすすぎ、胃の内容物を薄めるためにコップ 1～2 杯の水や牛乳をゆっくり飲ませる。ただし、意識混濁・昏睡状態、痙攣などの場合は、何も与えず、直ちに医師に連絡すること。
 可能であれば、指をのどに差し込み吐き出させること。

暴露防止及び保護措置

	管理濃度（厚生労働省）	許容濃度（産衛学会）	ACGIH
酸化クロム	未設定	0.5mg/m ³ (Cr として)	TWA0.5mg/m ³ (asCr(III))
酸化アルミニウム	未設定	【粉塵許容濃度】（第 1 種粉塵） 吸入性粉塵 0.5mg/m ³ 総粉塵 2mg/m ³	TWA 1mg/m ³ (R)

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて空気呼吸器、適切な眼・皮膚の保護具を着用する。

管理濃度・作業環境評価基準

粉じん：E = 3.0 mg/m³（遊離ケイ酸を含有しない場合）

許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

日本産業衛生学会（2010）：0.5 mg/m³（アルミナ；第1種粉じん、吸入性粉じん）
2 mg/m³（アルミナ；第2種粉じん、総粉じん）

ACGIH TLV-TWA (2010) : 10 mg/m³（酸化アルミニウム、遊離ケイ酸含有率が1%未満で石綿を含まない粒子上物質の場合）

保護具

通常の取り扱いにおいては不要である。必要に応じて次の保護具を着用すること。

呼吸器の保護具： 防じんマスク
手の保護具： ゴム手袋、軍手
眼の保護具： 保護ゴーグル
皮膚及び身体の保護具： 作業用の長袖上衣、長ズボン、帽子、前掛け

設備対策： 研磨作業により粉塵が生じるため、研磨作業場には集塵装置が必要である。
作業所の近くに、洗眼や身体洗浄設備を設けることが望ましい。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。
汚染された衣類を再使用する場合は洗濯すること。

組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

成分	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法・化管法	管理番号	
クロム及び三価クロム化合物	30%	Cr ₂ O ₃	1-111	87	1308-38-9
酸化アルミニウム	13%	Al ₂ O ₃	(1)-23		1344-28-1
脂肪酸	9.5%	非公開	非公開		非公開
鉱物油	3.0%	非公開	非公開		非公開
活性剤	4.5%	非公開	非公開		非公開
イオン交換水	40%	H ₂ O	対象外		7732-18-5

GHS 分類に寄与する危険有害成分

酸化アルミニウム

適用法令

労働安全衛生法：名称等を通知すべき有害物（クロム及びその化合物（政令番号:142）（30%）及び有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9）
酸化アルミニウム（政令番号:189）（13%）

毒物及び劇物取締法：非該当

化学物質管理促進法（PRTR 法）：クロム及び三価クロム化合物
化管法管理番号：1-111
管理番号：87

水道法： 有害物質（アルミニウム及びその化合物）

海洋汚染防止法：有害液体物質（Y 類物質；飽和脂肪酸（炭素数が 13 以上のもの及びその混合物））
じん肺法：粉じん（アルミナ）
毒物及び劇物取締法 ・ 該当しない
消防法 ・ 該当しない
水質汚濁防止法 ・ 該当する
海洋汚染及び海上災害の防止に 関係する法律 ・ 海洋汚染物質
廃棄物の処理及び清掃に関する 法律 ・ 産業廃棄物

火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素（炭酸ガス）、砂

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性の煙、蒸気、ガス、フュームを発生するおそれがある。

一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素を生成するおそれがある。

特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、有害な煙、蒸気、ガス、フュームの吸入を避ける。

適切な空気呼吸器、眼・皮膚の保護具を着用する。

漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響があるおそれがあるため、製品の環境中への流出を避ける。

水生環境中で長期に亘り影響を及ぼすことがある。

回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

少量の場合：まず、火気がある場合には速やかに取り除き、引火を防ぐ。

次に、ウエスで拭き取るか、掃き集めて回収する。

多量の場合：製品が熱により溶融している場合、まず、土砂等で流出の拡大を防止す

る。

次に、冷却し製品が固化するのをまって掃き集めて回収する。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	・ ペースト
色	・ 緑色
臭い	・ 無臭
pH	・ 中性
融点／凝固点	・ 情報なし
沸点、初留点及び 沸騰範囲	・ 情報なし
引火点	・ 引火せず
自然発火温度	・ 情報なし
燃焼性(固体、ガス)	・ 情報なし
燃焼又は爆発範囲	・ 情報なし
蒸気圧	・ 情報なし
蒸気密度	・ 情報なし
蒸発速度(酢酸ブチル＝1)	・ 情報なし
比重(密度)	・ 1.5
溶解性	・ 水と任意に溶解・懸濁する
オクタノール／水分配係数	・ 情報なし
分解温度	・ 情報なし
粘度	・ 情報なし
粉じん爆発下限濃度	・ 情報なし
最小発火エネルギー	・ 情報なし
体積抵抗率(導電率)	・ 情報なし

安定性及び反応性

安定性

安定性	・ 室温で安定である。
危険有害反応可能性	・ 水との反応性はない。

避けるべき条件

- ・ 高温に加熱しない。
- 引火するおそれがあるので、火気、熱源との接触を避け

る。

混触危険物質

- ・ 強酸性物質、強アルカリ性物質

危険有害な分解生成物

- ・ 情報なし

有害性情報

急性毒性 ・ 情報なし

酸化クロムとして

急性毒性：経口 ・データなし

酸化アルミニウムとして

急性毒性：経口 ・ラット LD50>5000mg/kg(IUCLID(2000))の記載より区分外とした。

環境影響情報

環境に対する有害性 ・ 情報なし

生態毒性 情報なし

土壌中の移動性

廃棄上の注意

この製品自体を廃棄しようとする、と、水質汚濁防止法の排水基準（生活環境項目）に許容濃度を定めており、廃棄物の処理および清掃に関する法律の産業廃棄物に相当し、これらの関係法令を遵守する必要があります。

残余廃棄物

- ・大量の場合：処理を外部に委託する。産業廃棄物のマニフェストを交付する必要がある。

- ・少量の場合：焼却または産業廃棄物業者に委託する。

汚染容器及び包装

- ・ 空容器は焼却または産業廃棄物業者に委託して処分する。

輸送上の注意

国際規制

国連番号： 3082

国内規制

陸上規制情報：労衛法に定められている運送方法に従う。

航空規制情報：非危険物

海上規制情報：船舶安全法の規定に従う。

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号： 171

特別の安全対策： 運搬に際して、水漏れ湿気に注意し、容器からの漏れのないことを確かめ、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

その他の情報

参考文献： 創研工業株式会社資料

化学物質総合情報提供システム (CHRIP) GHS 分類結果

日本産業衛生学会 (2010) 許容濃度の知生

ACGIH (2010) TLVs and BEIs

意) 本 MSDS は、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006、JIS Z 7252:2009 に準拠しました。

作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいていますが、コールタールピッチには、有害性の

る数多くの多環芳香族炭化水素が含まれており、それらの多くは特定されていません。その結果、本 MSDS の記述内容は必ずしも十分ではありませんので、取扱いにはご注意ください。本 MSDS の記載内容については、新しい知見等がある場合

には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。